

医療法人タピック

沖縄リハビリテーションセンター病院

業績集 2023

The Journal of Okinawa Rehabilitation Center Hospital

Vol.11

2022年4月～2023年3月



TAPiC

TAPiC の理念

Total

総合性

患者さんを心と体、社会性という総合的な存在として捉える総合医療

Academic

探求性

未踏の分野を目指し研究する専門家集団

Popular

患者の立場

原点は病む心への援助

International

国際性

視界をアジア・世界に向ける

Centurial

21世紀にふさわしい

新世紀の医療の担い手

沖縄リハビリテーションセンター病院

新館

沖縄リハビリテーションセンター病院

本館

介護老人保健施設

亀の里



目次

巻頭言	医療法人タピック 理事長・沖縄リハビリテーションセンター病院 院長	
	医師 宮里好一	1
タピック関連企画の講演会・講習会		3
院外講演・講義		4
学会発表		10
座長		12
院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会		12
イーストタピック研究大会 2022		14
看護・介護実践研究発表会		15
派遣事業		16
その他の業績		18
ホールカンファレンス		20
小論文		24
院内医療統計		32
メディア関連記事（医療医学・観光・その他）		36
年表（2022年・令和4年）		70
タピックグループ一覧		71
編集後記	医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院	
	管理部 統括部長 玉栄亨	75

巻頭言～2020年1月から3年半の軌跡～

医療法人タピック

沖縄リハビリテーションセンター病院

理事長・院長 宮里好一

タピックという組織の内外、沖縄・日本、世界、地球環境の激変が3年半、続いている。この節目がいつ終息するのかまだ見えない。まずは、コロナ禍の中で、医療や経営を継続できたのは、苦難に耐え抜いた全職員のおかげであり、関係者のご支援があったからであり、衷心より感謝申し上げる。

2019年12月に発生し2020年1月に日本に上陸した新型コロナウイルス感染症 COVID-19 と、2022年2月に勃発したロシア対ウクライナ戦争が世界を同時的に苦しませ続け、その影響は政治経済、環境、われわれのふだんの生活を一変させている。最近では、クラスター弾の登場、最近までも沖縄ではコロナの5類変更に伴う社会生活の制限の解除の中で、全国断トツの感染者数の増加と医療ひっ迫が出現していた。

この3年半、幾度かのクラスターも跳ね返してきた。

この中でも計画を延期せず、2020年7月に当院の新館竣工オープンと本館改築着工した。同11月には4年に1回の全タピックグループ合同のタピック・アカデミック・フェスティバル (TAF) 開催。2021年2月、旧玉木病院から患者さんと職員の本館への移転・合流、病院機能評価更新、地域包括支援センター運営、地域密着事業施設建設、沖縄県依存症拠点機関指定など次々と新たなチャレンジを重ね、課題を成し遂げた。

地球史において、地球レベルの環境激変が起こるたびに、生命は幾度も進化を遂げてきた。6600万年前の小惑星衝突によって恐竜が滅びただけでなく、地球上の動植物の75%が絶滅した。その後、生き残った小さなネズミのような哺乳類が台頭し、700万年前に人類が誕生し、10万年前に現生人類ホモ・サピエンスがアフリカに出現した。

その後、人類は地球上のほぼすべての地域に分布し支配してきた。二つの世界大戦を始め、ペストやスペイン風邪の世界的規模の感染症、さまざまな自然災害など危機を乗り越えてきたが、この3年半は人類全体の生存危機につながりうる様相と言っても過言ではない。危機によって、社会そのものが進化を遂げて新時代を開くのか、袋小路に迷い込むのか、岐路に立っているだろう。

医療の世界にあるわれわれは、人々の命を守り、病気や障害を乗り越えて社会に復帰し、新たな生活や人生を再構築するために持続的な支援を続けるという使命・役割を担っている。来年2024年度は、診療・介護・障害福祉サービス等の報酬のトリプル改定が実施される。翌2025年度は、団塊の世代が全員75歳を超える年であり、「地域包括ケアシステム」構築の“目途”の年でもある。

本年6月の中央社会保険医療協議会・総会（中医協）において、厚労省から同時報酬改定に向けた7つのテーマの意見交換会のまとめが示された。(1)医療・介護・障害サービスの連携、(2)リハビリテーション・口腔・栄養、(3)高齢者に対応した急性期入院医療、(4)高齢者施設・障害者施設等における医療、(5)認知症、(6)人生の最終段階における医療・介護、(7)訪問看護、(8)薬剤管理、これら8項目に分けて、国の方向性が示されたと考え

る。タピックとしても具体的な取り組みを進めていきたい。中核施設である沖縄リハビリテーションセンター病院では、看護・リハビリテーション部門の職種別の組織充実と他職種チームによるホール体制の進化、医療内容そのものの進展・進化、新たな介護部門設立、リーダーのマネジメント研修の重視などタピック横断的な教育研修システムの準備を進めていきたい。

また、医療・介護・障害福祉の分野に留まらず、教育、観光、公民連携の指定管理事業などの事業領域に携わるタピックグループの個性や強みを生かすためにも、グループ内協働、グループ外施設との連携を広げたい。2040年を目標年とする「健康と生きがいのある元気なまちづくり」に向けて貢献すべく、学習する組織として一層の努力をしたい。組織を見直し経営を再構築し、新たな発展に向かうため全職員が自分ごととしてともに歩むことを願う。

【ネオパークオキナワ：オニオオハシの親子】



【東南植物楽園：開業55周年記念イベント】



【あざまサンサンビーチ：ユニバーサルビーチ（モビマット・モビチェア）】



【ユインチホテル南城：猿人の湯】



【2023年4月 イーストタピック入職式】



講演会・講習会等

タピック関連企画の講演会・講習会

院外講演・講義

学会発表

座長

院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会

イーストタピック研究大会 2022

看護・介護実践研究発表会 2022

派遣事業

その他の業績

ホールカンファレンス

タピック関連企画の講演会・講習会

1. 沖縄県高次脳機能障害セミナー

テーマ：「事例から学ぶ沖縄の自動車運転再開支援」

講師：医療法人琉心会勝山病院幸地裕太 氏（作業療法士）

医療法人沖縄寿光会与勝病院平安名知恵 氏（作業療法士）

医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院比嘉成美 氏（言語聴覚士）

医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 我如古岳幸 氏（作業療法士）

日時：2022年9月10日

会場：オンライン研修

主催：沖縄県

共催：一般社団法人 沖縄県指定自動車学校協会

一般社団法人 沖縄県作業療法士協会沖縄の移動を考える作業療法委員会

一般社団法人 沖縄県言語聴覚士会

沖縄県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業拠点機関

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

2. 沖縄県失語症セミナー

テーマ：「失語症者がある方の復職・就労支援」

講師：国際医療福祉大学 教授 内田信也 氏（言語聴覚士）

日時：2022年10月1日

会場：オンライン研修

主催：沖縄県

共催：一般社団法人 沖縄県言語聴覚士会

沖縄県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業拠点機関

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

3. 沖縄県高次脳機能障害セミナー

テーマ：「高次脳機能障害のリハビリテーション-ADLをどう診るか、どう介入につなげるか-」

講師：森ノ宮医療大学保健医療学部 東泰弘 氏（作業療法士）

日時：2022年11月26日

会場：オンライン研修

主催：沖縄県

共催：一般社団法人 沖縄県言語聴覚士会

一般社団法人 沖縄県作業療法士会

公益社団法人 沖縄県理学療法士協会

沖縄回復期リハビリテーション病棟協会

沖縄県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業拠点機関

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

4. 第16回沖縄PEECコース

日時：2022年12月18日

主催：沖縄県

共催：医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院 日本臨床救急医学会

場所：オンライン

対象：一般救急医療に従事する沖縄県在住の医療関係者および行政担当者

内容：模擬症例をもとにしたグループ・ディスカッション

修了者：6名

院外講演・院外講義

1. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

講演名：第55回 PTOTST 研修会「一味同心」

テーマ：今、PTOTST に求められている他職種連携とは

日時：2022年7月2日

場所：WEB 研修会

主催：一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会

2. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

講演名：創立60周年記念 第59回沖縄県老人クラブ大会記念講演

テーマ：つながりが一番～あなたの生きがいと健康づくり、そして社会のために

日時：2022年11月18日

場所：アイム・ユニバースてだこホール大ホール

主催：沖縄県老人クラブ連合

3. 氏名：手塚 幸雄（医師）

セミナー名：iJAMP 自治体実務セミナー アルコール健康障害対策における早期発見と早期治療の重要性

テーマ：30秒でできる「超」簡易減酒支援

日時：2022年5月16日

場所：オンライン

主催：時事通信社

協賛：大塚製薬株式会社

後援：厚生労働省、全国知事会、全国保健所長会、全国精神保健福祉センター長会、日本肝臓学会、日本アルコール関連問題学会、日本精神保健福祉士協会

4. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和4年度 DPAT 先遣隊隊員技能維持研修

日時：2022年5月28日、6月4～5日

場所：日本精神科病院協会会議室

主催：DPAT 事務局

5. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：知っておこう！上手なお酒との付き合い方

日時：2022年6月25日

場所：ユインチホテル南城

6. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム研修会

日時：2022年7月9日、12月5日

場所：オンライン

主催：肥前精神医療センター

7. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：東京都救急医等専門研修 東京都 PEEC コース

日時：2022年7月24日、11月6日

場所：オンライン

8. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：横浜市大 PEEC コース

日時：2022年8月21日、12月11日

場所：オンライン

主催：横浜市立大学 精神医学教室

9. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和4年度アルコール家族教室

日時：2022年9月6日

主催・場所：中部保健所

10. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：第30回日本精神科救急学会学術総会公開 PEEC コース

日時：2022年9月30日

場所：埼玉会館

主催：第30回日本精神科救急学会学術総会 大会事務局

11. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：知っておこう！上手なお酒との付き合い方

日時：2022年10月14日

場所：ペアーレ沖縄・タピック

12. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和4年度消防学校救急科講義（精神障害）

日時：2022年11月17日

主催・場所：沖縄県消防学校

13. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和4年度DPAT統括者・事務担当者研修

日時：2022年11月12日

場所：日本精神科病院協会会議室

主催：DPAT事務局

14. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和4年度沖縄県DPAT研修

日時：2022年12月14日

主催・場所：精神保健福祉センター

15. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和4年度アルコール関連問題支援者研修会

日時：2022年12月15日

主催・場所：中部保健所

16. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：都道府県等依存症専門医療機関・相談員等合同全国会議 ファシリテーター

日時：2023年1月13日

場所：AP品川アネックス

主催：依存症対策全国センター

17. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：知っておこう！上手なお酒との付き合い方

日時：2023年2月11日

場所：南大東村保健センター

18. 氏名：高野 圭史（言語聴覚士）

講義名：言語聴覚障害診断学Ⅱ

日時：2022年4月19日

主催・場所：沖縄リハビリテーション福祉学院 言語聴覚学科

19. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学と心理的支援（全15回）

日時：2022年4月～2022年7月

主催・場所：琉球リハビリテーション学院 社会福祉学科

20. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学と心理的支援（レポート指導・添削）

日時：2022年5月8日

主催・場所：ソーシャルワーク専門学校 社会福祉士一般養成課程（通信）

21. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学と心理的支援（全15回）
日時：2022年9月～2023年2月
主催・場所：沖縄統合医療学院 社会福祉学科

22. 氏名：杉田 未来(看護師)

講義名：基礎看護技術Ⅱ「活動と休息」
日時：2022年5月23日、6月15日
主催・場所：公益社団法人 北部地区医師会 北部看護学校

23. 氏名：比嘉 鮎子（管理栄養士）

講義名：高齢期の栄養に関する講話
日時：2022年7月14日
主催・場所：ペアーレ沖縄・タピック（Web講話）

24. 氏名：藤山 二郎（医師）

講義名：沖縄リハビリテーション福祉学院 言語聴覚士1年生 神経内科講義
日時：2022年10月4、11、18、25日、11月1、8、15、22、29日の9回
主催・場所：沖縄リハビリテーション福祉学院

25. 氏名：安慶名 誠（看護師）

講義名：リハビリテーション看護論
日時：2022年7月19日
主催・場所：名城大学

26. 氏名：三好 晋爾（医師）

講義名：整形外科学
日時：2022年4月14日、6月9日
主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

27. 氏名：平良 伸一郎（医師）

講義名：内科学
日時：2022年11月11、25日、2023年1月13、27日
主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

28. 氏名：我謝 翼（言語聴覚士）

講義名：臨床ゼミ
日時：2022年10月7日
主催・場所：沖縄リハビリテーション福祉学院

29. 氏名：大城 真悟（介護福祉士）

講義名：沖縄県認知症介護実践者研修
テーマ：「認知症の人とのコミュニケーションの理解と方法」「自施設における実習の課題設定」「自施

設自習評価」

日時：2022年7月12、22日、8月24日(第1回)

2022年9月12、22日、10月26日(第2回)

2022年11月8、18日、12月22日(第3回)

場所：いちゅい具志川じんぶん館(第1回、第2回、第3回)

30. 氏名：大城 真悟 (介護福祉士)

講義名：沖縄県認知症介護実践リーダー研修

テーマ：「認知症介護実践リーダー研修の理解」

日時：第1回2023年1月10日

場所：いちゅい具志川じんぶん館

31. 氏名：大嶺 ちひろ (管理栄養士)

講義名：沖縄市生活支援サポーター養成講座 (沖縄市委託事業)

テーマ：「高齢者の栄養問題」

日時：2023年1月19日

場所：タピックこども館

32. 氏名：宮城 哲哉 (作業療法士)

講義名：精神科医療機関における治療の実際・精神科医療の動向

日時：2022年12月14、21日、2023年1月4日

主催・場所：沖縄国際大学

33. 氏名：城間 清美 (生活支援コーディネーター)

講義名：地域のお宝発表

日時：2022年5月20日

場所：Web開催

主催：全国コミュニティライフサポートセンター

34. 氏名：森田 ひとみ (キャラバンメイト)、比嘉実希 (キャラバンメイト)

講義名：認知症サポーター養成講座

日時：2022年9月9日

場所：山里公民館 (自治会長・民生委員児童委員対象)

主催：沖縄市・地域包括支援センター西部南

35. 氏名：照喜名 重寿 (主任介護支援専門員)

講義名：ペアーレ幸寿大学 「終末期の過ごし方について」

日時：2022年9月19日

主催・場所：ペアーレ沖縄・タピック

36. 氏名：城間 清美 (生活支援コーディネーター)

講義名：お宝を生かした地域づくり

日時：2022年10月13日

場所：沖縄県青年会館（Web開催）

主催：全国コミュニティライフサポートセンター

37. 氏名：照喜名 重寿（主任介護支援専門員）

講義名：ペアーレ幸寿大学「地域貢献活動で充実したシニアライフを」

日時：2022年10月21日

主催・場所：ペアーレ沖縄・タピック

38. 氏名：宮城 尚美（キャラバンメイト）、城間 清美（キャラバンメイト）、森田 ひとみ（キャラバンメイト）

講義名：認知症サポーター養成講座

日時：2022年12月18日

場所：山里公民館（青年会対象）

主催：沖縄市・地域包括支援センター西部南

39. 氏名：森田 ひとみ（社会福祉士）

講義名：沖縄市生活支援サポーター養成講座「地域で活用できる公的支援」「ボランティアの心得」

日時：2023年1月12日

場所：タピックこども館

主催：沖縄市

40. 氏名：城間 清美（生活支援コーディネーター）

講義名：沖縄市生活支援サポーター養成講座「尊厳の保持と自立支援」

日時：2023年2月2日

場所：タピックこども館

主催：沖縄市

41. 氏名：森田 ひとみ（社会福祉士）

講義名：地域包括支援センターの役割

日時：2023年2月14日

場所：沖縄市社会福祉センター（民生委員児童委員対象）

主催：山内中学校区民生委員児童委員協議会

42. 氏名：比嘉 実希（キャラバンメイト）、宮城 尚美（キャラバンメイト）、
城間 清美（キャラバンメイト）

講義名：認知症サポーター養成講座

日時：2023年3月28日

場所：山内児童センターやまっち

主催：沖縄市・地域包括支援センター西部南

43. 氏名：宮里 由乃（理学療法士）、高宮城 あずさ（理学療法士）、富山 祐司（理学療法士）、

照屋 修平 (理学療法士)

講義名：介護予防認定理学療法士臨床認定カリキュラム

日時：2022年12月17、18日、2023年1月14、15、28、29日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 (オンラインと対面)

主催：沖縄県理学療法士協会

学会発表

学会名：回復期リハビリテーション病棟協会 第41回研究大会 in 岡山

日時：2023年2月24日～25日

会場：川崎医療福祉大学

1. 発表者：安慶名 誠 (看護師)

共同演者：長濱 一史 (医師)、垣花 美智江 (看護師)

演題名：当院回復期リハビリテーション病棟におけるスタッフコールの現状

2. 発表者：高野 圭史 (言語聴覚士)

共同演者：我謝 翼 (言語聴覚士)、當山 隆一 (言語聴覚士)、池原 千弥子 (言語聴覚士)、
内間 紗紀 (言語聴覚士)、當山 正裕 (言語聴覚士)、和宇慶 亮士 (作業療法士)、
垣花 美智江 (看護師)、知念 亜紀子 (医師)

演題名：当院における ST 教育プログラムの取り組みと課題

学会名：沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第9回研究大会

日時：2022年10月8日

会場：WEB (ZOOM ウェビナー)

3. 発表者：高野 圭史 (言語聴覚士)

共同演者：我謝 翼 (言語聴覚士)、當山 隆一 (言語聴覚士)、池原 千弥子 (言語聴覚士)、
内間 紗紀 (言語聴覚士)、當山 正裕 (言語聴覚士)、和宇慶 亮士 (作業療法士)、
垣花 美智江 (看護師)、知念 亜紀子 (医師)

演題名：当院における ST 教育プログラムの取り組みと課題

4. 発表者：杉田 未来 (看護師)

共同演者：杉田 未来 (看護師)、又吉 裕介 (理学療法士)、城間 恵 (作業療法士)、
小濱 紋乃 (介護福祉士)、比嘉 丈矢 (医師)、幸地 良潤 (看護師)、
真栄城 あかね (理学療法士)

演題名：認知症ケースカンファレンスを通しての学び ～取り組みと振り返り～

学会名：リハビリテーション・ケア合同研究大会「苫小牧2022」

日時：2022年9月30日～10月1日

会場：ハイブリッド開催(現地開催&オンライン配信)

5. 発表者：天野 健一 (介護福祉士)

共同演者：與那覇 祐子 (介護福祉士)、喜友名 深雪 (介護福祉士)、大城 真悟 (介護福祉士)、
平良 伸一郎 (副施設長 医師)

演題名：利用者のあった余暇活動を提供する事で生活の質を改善する事ができた認知機能低下を有する一例

6. 発表者：城間 清美（生活支援コーディネーター）
共同演者：森田 ひとみ（社会福祉士）、照喜名 重寿（主任介護支援専門員）、仲西 孝之（理学療法士）
演題名：高齢者サロンの立ち上げ支援とその効果～「健康と生きがいのある元気なまちづくり」を目指して～

学会名：第34回九州アルコール関連問題学会福岡大会

日時：2023年2月24～25日

会場：福岡国際会議場

7. 発表者：石川 章旗（作業療法士）
共同演者：池村 功（看護師）、手塚 幸雄（医師）
演題名：自由で開放的な依存症病棟

学会名：2022年日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会

日時：2022年9月9～11日

会場：仙台国際センター

8. 発表者：手塚 幸雄（医師）
演題名：沖縄県の離島におけるオンラインを利用した継続的な依存症診察 D to P with D

学会名：2022年日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会

日時：2022年9月9～11日

会場：仙台国際センター

9. 発表者：手塚 幸雄（医師）
共同演者：長 祥子（国立病院機構肥前精神医療センター）、伊禮 有香里（国立病院機構琉球病院）
演題名：依存症外来において予約から診察までの期間を短くする試みと効果検証

学会名：2022年日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会

日時：2022年9月9～11日

会場：仙台国際センター

10. 発表者：手塚 幸雄（医師）
演題名：依存症診療の後進育成（シンポジウム）

学会名：日本精神神経科診療所協会第28回学術研究会

日時：2022年9月18日

会場：オンライン

11. 発表者：手塚 幸雄（医師）
演題名：多忙な診療所でアルコール使用障害にどうアプローチするか（セミナー）

学会名：第6回関東甲信越アルコール関連問題学会

日時：2022年12月4日

会場：オンライン

12. 発表者：手塚 幸雄（医師）

演題名：地域や職域でできる減酒の取り組み（セミナー）

学会名：九州理学療法士学会大会 2022 in 福岡

日時：2022年11月26、27日

会場：北九州国際会議場

13. 氏名：宮里 由乃（理学療法士）

学会名：第29回沖縄県介護老人保健施設大会 WEB2022

日時：2023年3月24～31日

会場：WEB開催

14. 発表者：新垣 蘭香（支援相談員）

共同演者：比嘉 尚子（介護支援専門員）、池田 綾乃（支援相談員）、新垣 恵（支援相談員）、
大城 真悟（介護福祉士）、平良 伸一郎（副施設長 医師）

演題名：老健施設における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)集団感染(クラスター)発症時の併設医療機関、
関連施設との連携 ～効果と課題について、相談室の立場から～

座長

1. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

研修会名：沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第9回研究大会

研修会テーマ：「回復期リハビリテーション病棟の未来を想い（うむい） ～ちむどんどん～」

講演テーマ：「DX推進で乗り切る働き方改革」

講師：石川 賀代 氏（社会医療法人 石川記念会 HITO 病院 理事長）

日時：2022年10月8日

場所：WEB研修会

主催：沖縄回復期リハビリテーション病棟協会

2. 氏名：島袋 みちる（理学療法士）

学会名：第23回沖縄県理学療法学会大会

日時：2023年2月11日

会場：沖縄科学技術大学院大学

担当：ポスター演題、ジャンル・テーマ：神経

院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会

実施日	内容	実施者・担当
2022年4月1日	新人教育プログラム2022	教育研修委員会
2022年4月15日	新人研修（回復期リハビリテーション病棟協会主催） （WEB）	教育研修委員会
2022年4月23日	全国の精神科医療の現状、沖縄の状況、精神科にも対応した地域包括ケアシステムの説明（厚生労働省資料）、文献からデイケアの位置づけを学ぶ。	精神科デイケア
2022年6月4日	イーストタピック研究大会（一般演題、事前録画 オンデマンド配信）	教育研修委員会

2022年6月20日	シーティング勉強会	シーティング班
2022年6月20日	院内研修「クレーム対応」e-ラーニング視聴	教育研修委員会
2022年6月30日	院内勉強会「アルコール依存症の理解と当院の展望」	手塚幸雄 (Dr)
2022年7月11日	WEB研修「地域包括ケア病棟におけるリハビリテーション」	教育研修委員会
2022年7月22日	院内研修「クレーム対応」事例報告会 WEB (各部署代表者)	教育研修委員会
2022年7月25日	褥瘡対策委員会 年間報告会 2022	褥瘡委員会
2022年8月5日	第1回 児童精神科勉強会「児童精神科について～当院の展望」	堀田洋 (Dr)
2022年8月6日	中堅研修 2022 パート I	教育研修委員会
2022年8月18日	院内研修 医療安全管理委員会「窒息の応急処置動画」(動画視聴)	医療安全管理委員会
2022年8月20日	2年目研修 2022	教育研修委員会
2022年8月27日	様々な文献より病院と地域との連携、情報共有の仕方、訪問看護の必要性について学ぶ。	精神科デイケア
2022年9月2日	第2回 児童精神科勉強会「リラクゼーション法」	堀田洋 (Dr)
2022年9月3日	新入職中期研修 2022	教育研修委員会
2022年9月12日	WEB研修「介護医療院におけるリハビリテーション」	教育研修委員会
2022年9月16日	第3回 児童精神科勉強会「脳の構造とストレス反応、トラウマ」	堀田洋 (Dr)
2022年9月17日	リーダー研修 2022 パート I	教育研修委員会
2022年9月20日	シーティング勉強会	シーティング班
2022年9月26日	シーティング勉強会	シーティング班
2022年10月11日	中堅研修 2022 パート II	教育研修委員会
2022年10月21日	第4回 児童精神科勉強会「愛着、脳の発達」	堀田洋 (Dr)
2022年10月26日	マネジメント研修 2022 パート I	教育研修委員会
2022年10月29日	デイケアの数字より、新規者の動向、デイケア利用者の高齢化に伴う介護保険分野への移行についての事例を話し合う。	精神科デイケア
2022年11月4日	第5回 児童精神科勉強会「トラウマの影響、神経発達症」	堀田洋 (Dr)
2022年11月14日	WEB研修「介護老人保健施設におけるリハビリテーション」	教育研修委員会
2022年11月18日	院内研修 医療安全委員会「弁護士から見た回復期リハ病棟における医療事故対策」(動画視聴)	医療安全管理委員会
2022年11月18日	院内研修 感染対策委員会「薬剤耐性対策、新型コロナウイルス、カテーテル関連感染」	感染対策委員会
2022年11月18日	第6回 児童精神科勉強会「複雑性 PTSD、解離」	堀田洋 (Dr)
2022年11月24日	PT2年目 症例検討会	PT 管理職
2022年11月26日	OT OFF-JT 地域紹介 (外来リハ、高次脳デイ、精神デイ)	OT 管理職
2022年11月27日	OT OFF-JT 地域紹介 (亀の里、百歳堂、訪問リハ)	OT 管理職
2022年12月10日	中途入職者研修 2022	教育研修委員会
2023年1月7日	リーダー研修 2022 パート II	教育研修委員会
2023年1月31日	OT 生活行為班勉強会 (興味関心チェックリストと ADOC の活用について)	OT 管理職
2023年1月31日	OT 肩の機能解剖について	OT 管理職
2023年2月2日	院内研修 感染対策委員会「基礎から学ぶワクチン」e-ラーニング	感染対策委員会
2023年2月3日	院内プレゼンテーション研修会	教育研修委員会
2023年2月3日	第7回 児童精神科勉強会「複雑性 PTSD の治療」	堀田洋 (Dr)
2023年2月4日	マネジメント研修 2022 パート II	教育研修委員会
2023年2月13日	WEB研修「内部障害のリハビリテーション」	教育研修委員会

2023年2月17日	看護・介護ケア実践研究会 2022	看護ケア部門
2023年2月28日	PT2年目 症例検討会	PT 管理職
2023年3月2日	院内 BPC 研修会	富盛副院長 Ns 宜野座 M
2023年3月3日	院内プレゼンテーション研修会	HR 局 中山課長
2023年3月13日	OT1年目の情報交換会	OT 管理職
2023年3月27日	院内研修 医療安全委員会「虐待防止」	医療安全管理委員会
2023年3月28日	PT2年目 症例検討会	PT 管理職
2023年3月29日	新人教育プログラム 2023 相談会	教育研修委員会

<その他の院内勉強会>

訪問リハビリテーション室：毎月3～4回（症例検討会23件、勉強会25件、在宅部勉強会8件）

イーストタピック研究大会 2022

テーマ：仲間とともに成長し続ける組織 The Learning TAPIC Organization を目指そう！

開催日：2022年6月4日

開催場所：WEB 配信（双方向ライブ配信）（オンデマンド配信）※コロナ感染対策のため

大会長：宮里 好一（タピック代表）

実行委員長：比嘉 丈矢（沖縄リハビリテーションセンター病院 医師）

内容：講演 I、II、一般演題（10 演題）

【講演 I】 テーマ：エンゲージメントの向上による組織・個人の相互が成長する組織づくり

講師：太田 昇蔵 先生（株式会社 日本経営 組織人事コンサルティング部副部長）

【講演 II】 テーマ：仲間とともに成長し続ける組織 The Learning TAPIC Organization を目指そう！

講師：富盛 宏 副院長、垣花 美智江 副院長、仲西 孝之 副院長

【一般演題】

- ・ 演題 1. 認知症ケースカンファレンスを通しての学び～取り組みと振り返り～
発表者：杉田 未来（新館5階メディカルホールていーだ 看護師）
- ・ 演題 2. 利用者様にあった余暇活動を提供することで生活の質を改善する事ができた認知機能低下を有する一例
発表者：伊波 沙織（亀の里 介護福祉士）
- ・ 演題 3. 幻視・妄想・不安感を有したレビー小体型認知症への多職種アプローチ
発表者：伊芸 太一（本館7階メディカルホールゆいまーる 看護師）
- ・ 演題 4. 患者の思いに寄り添うための ICF 活用による退院支援
発表者：柿本 幸子（新館4階メディカルホールちゅらうみ 看護師）
- ・ 演題 5. 精神科病棟における排便コントロールの取り組み
発表者：照喜名 舞（栄養室 管理栄養士）
- ・ 演題 6. 回復期リハビリテーション病棟における新型コロナウイルス感染症 (COVID=19) 発生時のホール管理
発表者：金城 ユリ子（新館4階メディカルホールちゅらうみ 看護師）
- ・ 演題 7. 当院回復期リハビリテーション病棟におけるスタッフコールの現状
発表者：安慶名 誠（新館2階メディカルホールはいさい 看護師）
- ・ 演題 8. 脳卒中発症から4年後に転職に挑戦した一事例～高次脳デイケア就労プログラムの活用
発表者：森谷 優希（高次脳デイケア 作業療法士）
- ・ 演題 9. 高齢者サロンの立ち上げ支援とその効果

～「健康と生きがいのある元気なまちづくり」を目指して～

発表者：城間 清美（沖縄市地域包括支援センター西部南 理学療法士）

- ・ 演題 10. リハビリテーションツーリズム～モデル実証報告～

発表者：池宮 沙織（管理部 事務）

看護・介護実践研究発表会 2022

テーマ：今年も起こすよ New movement

開催日：2023年2月9日

開催場所：新館6階講堂

実行委員長：新垣 大樹、副実行委員長：兼久 由紀

【演題】

- ・ 演題 1. 認知症高齢者の身体拘束を考える～身体拘束解除に向けた取り組み～
発表者：遠藤 理沙（本館7階 看護師）
- ・ 演題 2. 治療に断念し看取りの支援を決めた事例～クライアントの思いに寄り添う～
発表者：知念 幸治（本館6階 看護師）
- ・ 演題 3. 多職種・行政・家族の連携による長期入院患者への退院支援
～退院に対する不安感へのアプローチ～
発表者：仲真 隼人（本館5階 看護師）
- ・ 演題 4. 依存症病棟の新しい取り組みと今後の展開
発表者：池村 功（本館4階 看護師）
- ・ 演題 5. Tホールにおけるセンサーベッドのコール分析
～コールの実態とスタッフの使用基準の認識調査から～
発表者：津波古 哲也（新館5階 看護師）
- ・ 演題 6. 看護記録短縮に向けた試み～経過表の観察項目を活用して～
発表者：安里 かおり（新館3階 看護師）
- ・ 演題 7. 入浴評価表の活用について～早期自立に向けた実践と評価～
発表者：藤山 真子（新館3階 看護師）
- ・ 演題 8. K老健施設での新型コロナウイルス感染症（COVID19）～集団感染（クラスター）発生を振り返る～
発表者：友利 優美（亀の里 看護師）
- ・ 演題 9. 当院で人工膝関節置換術を受けたクライアントの術前・術後のBMI調査
～術後のQOL維持に必要な外来での支援に繋ぐ～
発表者：森永 千春（外来 看護師）
- ・ 演題 10. 当院手術後、深部静脈血栓症発症の傾向分析
～深部静脈血栓「0」を目指しての今後の課題と取り組み～
発表者：大城 航（新館2階 看護師）
- ・ 演題 11. 専門職チームによる多角視点での内服自己管理支援
～自宅退院に向けたクライアントへ介入を試みて～
発表者：金城 利哉（新館4階 看護師）
- ・ 演題 12. A回復期リハビリテーション病院における看護師の内服自己管理開始時の判断基準に関する実態調査
発表者：金城 ユリ子（新館4階 看護師）

派遣事業

1. 氏名：奥山 久仁男（医師）
大会：沖縄県高等学校ボクシング春季大会
日時：2022年4月29～30日
内容：医療救護班
2. 氏名：大城 史子（医師）
大会：沖縄県高等学校空手道夏季大会
日時：2022年4月29日
内容：医療救護班
3. 氏名：大城 史子（医師）
大会：沖縄県学生空手道選手権大会
日時：2022年4月30日
内容：医療救護班
4. 氏名：大城 史子（医師）
大会：沖縄県少年少女空手道選手権大会
日時：2022年5月22日
内容：医療救護班
5. 氏名：奥山 久仁男（医師）
大会：沖縄県高等学校総合体育大会ボクシング競技
日時：2022年5月28日
内容：医療救護班
6. 氏名：大城 史子（医師）
大会：沖縄県高等学校総合体育大会空手道競技
日時：2022年5月29～30日
内容：医療救護班
7. 氏名：大城 史子（医師）
大会：中頭地区中学校空手道競技
日時：2022年6月5日
内容：医療救護班
8. 氏名：大城 史子（医師）
大会：沖縄県高等学校空手道選手権大会
日時：2022年9月10日
内容：医療救護班

9. 氏名：大城 史子（医師）
大会：守礼堂オープンフレンドシップ空手大会
日時：2022年9月17～18日
内容：医療救護班
10. 氏名：大城 史子（医師）
大会：那覇市空手・古武道選手権大会
日時：2022年9月25日
内容：医療救護班
11. 氏名：大城 史子（医師）
大会：沖縄県高校新人大会空手道競技
日時：2022年10月16～17日
内容：医療救護班
12. 氏名：奥山 久仁男（医師）
大会：沖縄県高校新人大会ボクシング競技
日時：2022年10月30日
内容：医療救護班
13. 氏名：大城 史子（医師）
大会：いちご一会とちぎ国体 第77回国民体育大会空手道競技 県代表帯同
日時：2022年9月30日～10月4日
内容：医療救護班
14. 氏名：奥山 久仁男（医師）
大会：全九州高校新人大会ボクシング競技
日時：2022年11月18～20日
内容：医療救護班
15. 氏名：大城 史子（医師）
大会：沖縄県県民体育大会空手道競技
日時：2022年11月26日
内容：医療救護班
16. 氏名：大城 史子（医師）
大会：うるま若獅子杯空手道大会
日時：2022年12月17日
内容：医療救護班
17. 氏名：奥山 久仁男（医師）
大会：沖縄県高等学校ボクシング選手権大会・アンダージュニアボクシング選考会

日時：2022年12月25日

内容：医療救護班

18. 氏名：奥山 久仁男（医師）

大会：全九州アンダージュニアボクシング大会

日時：2023年1月28～29日

内容：医療救護班

19. 氏名：大城 史子（医師）

大会：沖縄県高校体育連盟空手道春季大会

日時：2023年2月4日

内容：医療救護班

20. 氏名：三好 晋爾（医師）、玉城 祐一郎（医師）、大城 史子（医師）、稲葉 圭吾（看護師）、
楠木 力（理学療法士）、仲宗根 楓（理学療法士）、嘉数 功平（作業療法士）、森本 忍（看護師）

大会：ダイキンレディースゴルフトーナメント

日時：2023年3月1～5日

内容：医療救護班

21. 氏名：大城 史子（医師）

大会：豊見城市スポーツ少年団武道大会

日時：2023年3月12日

内容：医療救護班

15. 氏名：山田 豊（公認心理師）

内容：依存症等専門（心理士）相談

日時：2022年12月～2023年2月

場所：中部保健所

その他の業績

1. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

ラジオ沖縄 おはようインタビュー 2022年9月5～8日 放送

2. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

執筆：回復期リハビリテーション病棟協会誌 2021.10 第20巻第3号（通巻78号） 追悼 石川誠

タイトル：傑出した組織者 石川さん

3. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

日本リハビリテーション病院・施設協会誌 2022年8月 2022年夏 第184号

追悼 回復期リハビリテーション病棟生みの親 石川誠先生を偲んで

タイトル：個人の尊厳を中心とするリハマインド

4. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）
表彰：第4回沖縄総合事務局バリアフリー化推進功労者表彰
 ウェルネスリゾート沖縄休暇センターユインチホテル南城（タピック沖縄株）
日時：2022年10月4日
場所：沖縄総合事務局 6F 特別会議室
5. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）
内容：第22回全国障害者スポーツ大会（いちご一会とちぎ大会）
 沖縄県障がい者スポーツ協会 団長
日程：2022年10月27日～11月1日の期間
6. 氏名：垣花 美智江（副院長・看護師）
内容：那覇市医師会 那覇看護専門学校創 50周年記念誌 特別編纂委員（七代学校長）
期間：2022年7月～12月
7. 氏名：垣花 美智江（副院長・看護師）
沖縄県看護実践研究会 会長
8. 氏名：垣花 美智江（副院長・看護師）
沖縄県助産師会 幹事
9. 氏名：手塚 幸雄（医師）
DPAT 調整本部 本部長（新型コロナウイルス対応）
日時：2022年4月3日、10日、23日、29日、30日
 2022年5月3日4日、7日、8日、22日、29日
 2022年8月13日、20日、28日
会場：沖縄県庁
10. 氏名：手塚 幸雄（医師）
南大東村アルコール相談
日時：2022年4月9日、5月7日、8月6日、11月19日、12月17日、2023年1月7日（オンライン）
 2022年6月11、12日、10月1、2日、2023年2月11、12日（現地）
 2022年8月13、20、28日
会場：南大東村保健センター
11. 氏名：犬尾 仁（医師）
内容：アルコール相談会（定期開催）
日時：2022年8月24日
場所：沖縄市福祉文化プラザ2F ホール
主催者：犬尾 仁（沖縄リハビリテーションセンター病院）他2名

12. 氏名：犬尾 仁（医師）
内容：FM コザ 761 『ちゅライフサポートのわ ドクター版』
日時：毎月第二木曜日 19：30～20：00 2019年7月開始
13. 氏名：犬尾 仁（医師）
内容：全日本断酒連盟 顧問就任 2023/4/1
14. 森田 ひとみ（社会福祉士）
内容：沖縄市在宅医療介護連携推進会議：年3回
日時：2022年8月15日、2022年11月21日、2023年2月20日
15. 森田 ひとみ（社会福祉士）
内容：沖縄市虐待防止ネットワーク委員会
日時：2023年2月9日
16. 富山 郁美（理学療法士）、高宮城 あずさ（理学療法士）、仲村 祐司（理学療法士）
北中城村短期集中予防サービス
日時：2022年4月～2023年3月 毎週水曜日（14：00～16：00）・金曜日（10：00～12：00）
場所：北中城村総合社会福祉センター
17. 宮里 由乃（理学療法士）、高宮城 あずさ（理学療法士）、仲村 祐司（理学療法士）、
我喜屋 利枝（看護師）
内容：沖縄市一般介護予防事業
日時：2022年5月12日～8月18日 毎週木曜日（9：00～12：00）
場所：ペアーレ沖縄タピック

ホールカンファレンス

1. 開催ホール：新館2階メディカルホールはいさい

発表者：稲葉 圭吾（看護師）、栗国 朝晴（理学療法士）、奥平 悦津子（作業療法士）、
上門 渚（介護福祉士）

テーマ：認知症の周辺症状に対する関わり方の検討

日時：2022年5月31日

目的：認知症患者の周辺症状を理解し、多職種によるチームアプローチにて統一した関わりがおこなえる

概要：診断名：骨盤骨折 既往歴：脳梗塞

施設入所中に転倒後、骨折を認めリハビリ目的にて当院入院となる。覚醒状況にムラがあり、認知機能低下に伴う介入拒否や叩くなど易怒的であった。また、家族から以前施設のケアに対する不信感があったと情報があり、本人から不安言動がみられていた。精神科医師による内服薬の変更に加え、趣味活動の実践やユマニチュードの関わり方を意識し不安要素の軽減を図ることが提案された。これまでの生活歴や背景を理解し、リハビリ・ケアに繋げる必要を認識した症例であり、引き続き、易怒的な場面、入眠状況、介入時の観察・記録を徹底し再検討する

こととなった。

2. 開催ホール：新4階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：呉屋 文吾（言語聴覚士）

共同演者：知念 貞幸（理学療法士）、内間 沙紀（言語聴覚士）

テーマ：自己管理意識の乏しい人への対応について

日時：2022年6月22日 参加人数 25名

目的：本人の権利や尊厳を考慮しながら、自己管理の方法を検討する。

概要：心原性脳塞栓症

高次脳機能障害や元々の性格で、自己管理困難な方。間食量を自身でコントロールできず、体重増加あり。間食の方法などをチームで検討・実行していたが、退院時まで自己管理の重要性が伝えられず、自己管理に至らなかった。カンファレンスでは、間食の提供の仕方を個包装で数個ずつと決める、患者さんを巻き込んで本人が納得する方法で管理する。患者さんと交渉する話術を身につける等が必要だった等の意見がみられた。

3. 開催ホール：新館4階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：幸良 光（介護福祉士）

共同演者：田仲 一貴（理学療法士）、屋嘉比 盛大（作業療法士）、呉屋 文吾（言語聴覚士）、齋藤 真美（看護師）、神里 桂子（社会福祉士）、加藤 貴子（医師）

テーマ：高次脳機能障害のあるクライアントの排泄自立に向けたアプローチ

日時：2022年10月28日

目的：高次脳機能障害により排泄管理が困難な方への対応方法を振り返る

概要：視床出血。高次脳機能障害

入院当初より夜寝入った後、ほぼ毎日シーツ汚染に及ぶ尿失禁が続いた。失禁対策として尿パットの当て方を職員同士で共有することや定時のトイレ誘導を実施するなど対処方法の統一を図った。それから本人様へオムツ指導を行うことで自己にて排尿後パット交換を行い片付けまでできるようになり介助量が大幅に減少した。その後も時々失禁続くも終日リハビリパンツ使用にて夜間尿意で起きることができトイレでの排尿を確立することができグループホームへの退院となった。

4. 開催ホール：新4階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：森根 航（作業療法士）

共同演者：仲村渠 康采樹（理学療法士）、辺土名 初音（言語聴覚士）、仲宗根 涼太（作業療法士）
田原 千裕（看護師）、幸良 光（介護福祉士）

テーマ：「転倒を繰り返す患者に対するの対策」

日時：2022年12月9日 参加者 33名

目的：当患者の転倒を振り返り、当患者並びに他患者の対策方法についてホールで考える機会とする。

概要：視床出血 HDS-R/MMSE 15/30・18/30（9月）19/30・26/30（11月）

当症例は、9月から11月にかけて覚醒や身体機能の向上は見られていたものの転倒を繰り返した。チーム内で予測される原因以外に、半側空間無視による立位バランスや耐久性の低下、自室やトイレ環境に対しての適応能力の低下、記憶低下による学習効果の困難さなどの課題が予測された。現在、身体抑制は4点柵と見守りを強化することで転倒無く過ごせているが、今後

抑制を外していくが必要になる。今回の症例検討の情報を元に、身体や高次脳機能の特性を念頭に実際の環境で練習を進めつつ、チームやホールで共有した対策を進めていけるよう予定を考えている。

5. 開催ホール：新4階メディカルホールちゅらうみ

発表者：本多 裕介（理学療法士）

共同演者：加藤 貴子（医師）、大城 武（看護師）、 兼久 亜希子（作業療法士）

幸良 光（介護福祉士）、東浜 敦子（看護師）

テーマ：クライアント様の高い目標と現実的な Goal にギャップがあり、移動手段の選定・障害受容をみこしたチームアプローチについて

日時：2022年12月27日 参加人数30名

目的：本人の高い目標と現実的な Goal とのギャップが生じているため、今後どのような対応が必要か検討

概要：胸髄症の術後

患者様の移動手段について、本患者様は入院時の Hope では杖歩行の獲得を挙げられているが、予後では歩行器歩行見守りレベル、車椅子併用での自宅復帰が現実的だと予測しており、本人の高い目標と現実的な Goal とのギャップが生じているため、今後どのような対応が必要か検討を行う。検討の結果、予後説明については急性期病院ではされていない状況を踏まえ、当院で予後説明が必要。本人に対して気づかせる方法として、現能力での ADL の工夫点や在宅生活の具体的な想定を共有することや福祉用具の選定、フォローアップの方法などについての意見交換ができた。

6. 開催ホール：新4階メディカルホールちゅらうみ

発表者：田原 千裕（看護師）

共同演者：東仲村 靖佳（看護師）、仲間 優莉（作業療法士）、田仲 一貴（理学療法士）

テーマ：帰宅欲求のあるクライアントの関わりについて

日時：2023年1月25日 参加人数30名

目的：「帰宅欲求の強いクライアントの対応」を振り返る。

概要：大腿骨転子部骨折術後、アルツハイマー型認知症

入院前情報：デイサービスを利用。帰宅の送迎は夕方に帰る日課であった。会話が好きで家族思いである。経過：入院時、夕方になると帰宅欲求が聞かれ、車椅子を自走し職員を捕まえては、出口を探している状況であった。また、日常ケアの拒否も強い状態であった。認知症ケアチームと、声かけの方法や関わりについて連携した。また1日のタイムスケジュールを作成し生活リズムを整える事で、生活環境に慣れ、他者との交流も図れ、話し好きだった A 氏の状態に近づく事ができた。また、帰宅要求は軽減できた。

クライアントの入院環境の適応支援は、心地良い居場所作りと一緒に模索し環境を整える事が必要だと感じた。

7. 開催ホール：新館2階メディカルホールはいさい

発表者：大城 史子（医師）、辺土名 佑佳子（看護師）、島袋 みちる（理学療法士）、

新垣 若菜（作業療法士）、上門 渚（介護福祉士）、照喜名 舞（栄養士）

テーマ：精神面が不安定な対麻痺患者の自宅退院に向けた関わり方

日時：2023年1月31日

目的：拒否や受け身な症例の現状課題と今後の方針、対応方法を病棟全体で共有する

概要：診断名：胸腰椎多発骨折 既往歴：うつ病、適応障害

精神科に入院後、症状軽快し自宅退院する。その後、対麻痺、胸腰椎多発骨折と診断。入院時から精神的な不安定さから訓練の拒否や介入困難、病棟対応への不満などがあり、現状の課題をチームにて分析をおこなった。全体で本人の訴えを共有し、入院生活のタイムスケジュール、声掛け方法の統一を図り、今後の目標と家屋調査などの時期を確認した。今回、介入拒否や受け身なケースに対して、主体性の引き出し方について、病棟全体で考える機会となった。

小論文

精神科長期入院患者への退院支援 ～退院に対する不安感へのアプローチ～



仲眞 隼人（看護師）（本館5階メディカルホールなかゆくい）

平田 鈴乃（看護師）、與那嶺 文代（看護師）、盛島 美帆（作業療法士） 島袋 花恋（精神保健福祉士）

【はじめに】

精神医療は、入院医療から地域生活中心へと国の方針が変わり、地域での支援が整えば退院支援と定着への支援を進めている。今回、長期入院を送っていたクライアントに対し、退院支援委員会が中心となって取り組んだ結果、クライアントが望む自宅退院に至った症例について報告する。

【事例紹介】

A氏 女性 50歳代。診断名：全般性不安障害。

入院期間：2008年9月～2022年9月（約14年）。

【結果】

2021年3月、A氏よりMHSWへ「主治医から退院の話があった。自宅へ退院したいが、家族は反対している」と相談あり。この内容を退院支援委員チームで共有。家族と面談し意向確認をすると、自宅退院に対して消極的であった。そこでA氏と家族に対し、グループホーム（以下GHと略す）を選択肢の一つとして検討をしてはどうかと勧め見学もしたが、A氏はGHへの退院に消極的であった。2回目の見学後にA氏から不安を訴える相談あり。家族も今後について「本人がより良い方向に進められるように調整したい」と話した。A氏は一貫して自宅退院を希望していることを家族へ説明。家族が不安に感じていることに対して理解を示し、地域活動センターなどのサービス活用をすることでA氏と家族の生活をサポートする事が出来ることを説明した。

2022年4月、退院に向けての支援会議を開催。A氏の自宅退院への希望を確認したことで、家族も「本人の希望を尊重したい」と話され、自宅退院の方向性が決まる。家族より、14年ぶりの夫婦での生活から両者のストレスが心配であることが不安点として挙がる。

2022年5月、A氏より不安発言が度々聞かれるようになった。本人の思いや不安を傾聴しつつ、日中の過ごす場として精神科デイケアを提案。6月～9月の間に5回の見学、自宅への退院前訪問も2回実施。A氏自身の目で自宅の生活環境を確認してもらい、夫と直接話をする機会を設けた。

2022年9月、2回目の支援会議を開催。A氏と夫、双方にストレスが貯まることが懸念される事についても、安心してお互いの時間を過ごしていけるよう方向づけた。

2022年9月X日自宅退院。9月X+11日より精神科デイケア通所開始し、現在も継続している。

【考察】

今回、精神科病棟に長期入院していたクライアントが退院に意欲をみせたことに対して、様々な職種が協力し、約1年6ヶ月退院支援を行うことで、A氏自身が希望する自宅退院が実現することができた。厚生労働省が、「入院中の精神障害者に対し退院の意志が明確でない段階から、グループホーム等での地域生活を体験する機会を確保するよう取り組むとともに、そのような機会に病院スタッフが同行することが促進されるような支援を病院、他地域移行支援を行う事業所が行える体制作りを推進する。」と述べていることに合致する支援となった。A氏自身の退院に対する不安は大きく、気持ちの迷いもみられたが、クライアントに寄り添い本人の意見を傾聴しながら、積極的に退院後の具体的なビジョンを説明することで安心感や方向性を確立できたと考えられる。時間をかけたことで、A氏自身や家族らが退院後の生活のイメージが出来た。また、退院後のサポートを行う支援者がいるという事を知ることが安心感に結びつき、クライアントの望む自宅退院を実現することが出来た大きな要因であったと考える。

当院回復期リハビリテーション病棟におけるスタッフコールの現状

安慶名 誠（看護師）（新館2階メディカルホールはいさい）

垣花 美智江（看護師）、長濱 一史（医師）



【はじめに】

当院、回復期リハビリ病棟（199床）に導入されたスタッフコールシステムによって患者からの呼び出しに関する諸情報を得ることができた。システムを活用し、当院におけるスタッフコールの現状について傾向分析を行ったので報告する。

【対象と方法】

当院、回復期リハビリ病棟（病床数 199 床）において 2021 年度に記録された全てのスタッフコールデータ（件数、応答時間など）と当院実績指数データによる統合評価を実施。

【結果】

当院回復期リハビリ病棟 4 ホールにおける、2021 年度に記録されたスタッフコールの件数は、678.521 件であった。呼び出し種別としては、一般呼び出しと緊急呼び出し（センサーコール）は同等であった。時間帯における呼び出し件数は、一般呼び出し、緊急呼び出し共に 18 時から 19 時、6 時から 8 時が多い。また、一般、緊急呼び出し共に、一定の患者にて集中しており、特に呼び出し件数の多い上位 10%は、FIM の身体機能、認知機能項目が共に低く、入院日数も長いことから実績指数も低い傾向であった。

【考察】

回復期リハビリ病棟では、患者の転倒リスクが高いことが示されており、また、生活の援助が主となることから、センサーへの対応や患者のルーム配置による導線が、看護業務に大きく影響を与えると考えられる。当院の調査でも、一般呼び出し、緊急呼び出し共に上位 10%の患者が集中的に呼び出していること、実績指数との統合評価により、入院時より予測に基づくケア提供が可能となると考える。また、スタッフコールの定期的な分析を行うことで客観的データを元に、適正なセンサー使用、患者のルーム配置について見直すことができ、業務負荷の軽減と患者の満足度の向上に繋がると推測された。

当院における ST 教育プログラムの取り組みと課題

高野 圭史（言語聴覚士）（新館5階メディカルホールていーだ）

我謝 翼（言語聴覚士）、當山 隆一（言語聴覚士）、池原 千弥子（言語聴覚士）、
内間 紗紀（言語聴覚士）、當山 正裕（言語聴覚士）、和宇慶 亮士（作業療法士）、
垣花 美智江（看護師）、知念 亜紀子（医師）



【はじめに】

当院は回復期リハビリテーション病棟を4病棟有しており、その運営方法は各病棟へ各職種が所属し、病棟ごとに運営を進める多職種混合組織体制である。そのため各セラピストの教育も病棟ごとに実施するため、病棟間でスタッフの成長度合いに差が生じることがあった。そこで2018年度から4病棟共通の言語聴覚士（以下、ST）教育プログラムを導入した。今回、ST教育プログラム導入前後の課題等を抽出し、教育プログラムの見直しを検討した。

【ST 教育プログラム】

1. OJT
2. OFF-JT
3. 年間研修計画
4. 症例検討会
5. 専門班活動

【方法】

1. プログラム導入前後の ST の課題等についてリーダーにて話し合い、その内容をカテゴリー化し、課題等を整理した。
2. ST26名のプログラム導入後のスキルチェック表平均値（2021年度）をラダーごとに算出した（4段階）（ラダー分類；1～2年目7名、3～5年目9名、6年目以降；10名）。

【結果】

1. ST教育プログラム導入前後で「目標が同じ」、「目標設定に要する期間の設定」、「訓練のパターン化」、「嚥下障害の客観的評価」等の課題が改善した。残った課題としては「退院後の生活イメージの不足」、「高次脳検査の統合解釈」があり、新たに「STが何をしているかわかりにくい」、「ADL評価、生活場面の把握」、「活動・参加へのアプローチ」についての課題が追加された。
2. プログラム導入後のスキルチェック表平均値（2021年度）は1～2年目；1.46/4、3～5年目；2.12/4、6年目以降；3.16/4と経験年数に応じたラダーレベルに達していた。

【考察】

導入前の課題が改善されており、経験年数に応じたラダーに達していることから教育プログラムの成果は出ていると考える。課題として「退院支援」や「機能訓練への偏り」などが挙げられた為、現在の教育プログラムに加え、今後は地域職員との勉強会や症例検討会、ICFを活用した活動参加への支援についての教育プログラムを追加検討する。

認知症ケースカンファレンスを通しての学び

～取り組みと振り返り～

杉田 未来（看護師）（新館5階メディカルホールでいーだ）

又吉 裕介（理学療法士）、城間 恵（作業療法士）、小濱 紋乃（介護福祉士）、
比嘉 丈矢（医師）、幸地 良潤（看護師）、真栄城 あかね（理学療法士）



【はじめに】

回復期病棟では主病名に加えて認知症を合併されている高齢者も多く、日々個々のケースに対応の難しさを感じている。今回、認知症ケースカンファレンスを通してチームでの取り組みを振り返り、学びを深めることができたので報告する。

【症例紹介】

80歳代男性、左大腿骨転子部骨折術後。

既往歴：認知症、統合失調症、両股関節変形症、糖尿病、前立腺肥大症等。

入院時 HDS-R：8点、DBD スケール：38点、口頭によるコミュニケーション可、

基本動作：全～中等度介助。家族は歩行可能レベルであれば、自宅退院を希望。

【経過】

排泄動作の獲得：終日失禁、日中は全介助にてトイレ誘導実施。夜間は連日オムツ外しあり、在宅を目指しつなぎ型衣類を試すが、本人が破って引き裂いてしまったため中止し、夜間はオムツとトイレ誘導併用に至った。

疼痛コントロール：薬剤調整と統一した介助方法を実施し、増強なく経過。

移動手段の獲得：疼痛状況、認知症等の影響により車椅子を中心とした病棟生活を送るが、自立レベルには至らなかった。

生活リズムの再構築：連日のオムツ外しにより、夜間覚醒・日中の覚醒不良、リハビリ拒否がみられた。夜間の排泄方法だけでなく日中の活動についても見直しを図るとともに、心身状態が不安定となっている要因についてチームで話し合い、アプローチの仕方について検討を行った。

【考察】

展開の予測を行う中で生じやすい思い込みや先入観に囚われてしまうことは、患者の回復の可能性や機会を狭めてしまう原因となる。認知症症状は多彩であり、またその人の習慣や考え方、生き方が多く反映されている。患者の気持ちに寄り添いながら、回復期の強みである多職種でのチームアプローチを生かし、個別性を捉えた柔軟なケア方法の探求および提供の必要性を再認識することができた。

高齢者サロンの立ち上げ支援とその効果

～「健康と生きがいのある元気なまちづくり」を目指して～

城間 清美（生活支援コーディネーター） （沖縄市地域包括支援センター西部南）

森田 ひとみ（社会福祉士）、照喜名 重寿（主任介護支援専門員）、

宮城 尚美（認知症地域支援推進員）、比嘉 実希（介護福祉士）、仲西 孝之（理学療法士）



【はじめに】

地域包括支援センターは高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けられる仕組み「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいる。その一環で生活支援コーディネーターら職員は高齢者の社会参加や介護・認知症予防等を図る目的で気軽に通える居場所作りを役割に持つ。今回、高齢化が進む県営住宅で立ち上げた高齢者サロンを紹介する。

【サロンの立ち上げと取り組み】

令和3年7月に団地集会所で行なった認知症予防パネル展をきっかけに団地の自治会役員らと協議を重ねサロン立ち上げに至った。役員らは支援者となり、団地内外の住民が参加。活動内容は体操や講話等である。

【方法】

参加者にはサロンの効果を確認するためアンケートを実施、役員らには実施による効果、運営上の課題について聞き取りを行った。

【結果】

参加者は「体力向上や認知症予防」等の効果を感じていた。また、役員らは「サロンを立ち上げるタイミングが合致した」「自宅から出ることで得られることがある」と感じていた。その一方で「運営側の負担軽減を図らなければ続かない」等の課題が聞かれた。

【考察】

サロンの効果として、閉じこもりを防ぎ社会参加の意欲を高める。お互いに見守り見守られる関係づくり、介護予防、認知症予防等が挙げられる。今回、参加者と役員らよりサロンの効果が確認できた。今後はサロンの継続的な運営のために負担にならない活動内容や支援の工夫が必要である。



県営団地集会所で、体操・太極拳などを楽しんでいる

老健施設における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）集団感染（クラスター）発生時の併設医療機関、関連施設との連携～効果と課題について 相談室の立場から～



新垣 蘭香（支援相談員）（介護老人保健施設亀の里）

比嘉 尚子（介護支援専門員）、池田 綾乃（支援相談員）、新垣 恵（支援相談員）、大城 真悟（介護福祉士）
平良 伸一郎（医師）

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は 2019 年末、中国武漢に端を発しその後、全世界へ感染が拡大した。沖縄県でも複数回の感染流行拡大を経験しており、2022 年 10 月時点で累積感染者数 50.8 万人、累積死者数 775 人となっている。老人福祉施設においても標準予防策、ワクチン接種などの感染対策を徹底しているが集団感染（クラスター）の報告は後を絶たない。当施設では 2022 年 8 月、感染者数 71 名（施設利用者 43 名、職員 28 名）の大規模クラスターを経験した。併設医療機関や関連施設との連携により急性期医療機関への入院や死亡者を出すことなく 33 日間で収束させることができたので文献的考察を加え報告する。

【目的】

当施設で経験した COVID-19 クラスター発生時の併設医療機関、関連施設との連携について提示するとともに、相談室の立場から効果と課題について検討する。

【方法】

COVID-19 クラスターに対する感染対策期間（2022 年 7 月 31 日～9 月 1 日の 33 日間）において併設医療機関との連携（陽性者の入院・治療、職員派遣）、関連施設との連携（職員派遣）について振り返りを行った。

【結果】

感染者数 71 名 施設利用者 43 名（軽症 15 名、中等症Ⅰ 17 名、中等症Ⅱ 11 名）、職員 28 名（医師 2 名、看護師 6 名、介護職員 16 名、リハビリ職員 4 名）併設医療機関（1 施設）：回復期リハビリテーション病院（コロナ患者用病床 12 床）入院受け入れ基準：基礎疾患かつ中等症以下入院 18 名（年齢 52～100 歳、介護度 2～5、入院期間 10～16 日間）関連施設（4 施設）：回復期病院、デイサービス、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム職員派遣 24 名（看護師 10 名、介護職員 7 名、リハビリ職員 7 名）2 つある居室フロアでほぼ同時にクラスターが発生した。

【考察】

老健施設において COVID-19 大規模クラスターを経験した。併設医療機関へ陽性者を速やかに入院させ、関連施設からの職員派遣支援が受けられたことが 33 日間という比較的短期間で収束に至った要因と考えられる。

相談室は感染者の転院調整、家族への情報提供、清潔区域での後方支援作業を担当した。感染者が迅速に入院できた反面、転院調整時の利用者情報提供が遅れた。病院との連携不足による感染者家族への連絡遅れ、利用者家族に対して感染状況に関する情報提供不足があった。今回の経験から病院との連携シート、利用者家族への連絡手順を作成した。今後は更なる連携・情報提供の強化を行っていきたい。

<参考文献の記載方法>

- 1) 厚生労働省：新型コロナウイルスについて 新型コロナウイルス感染症診療の手引き改訂のポイント
<https://www.mhlw.go.jp/content/000631551.pdf>
- 2) 宮地千尋、他：老人保健施設における COVID-19 のクラスターの体験 JMC.2021.138:47-52
- 3) 高柳克江：当施設での新型コロナクラスター対応について（第 3 波）J.Seizon and life Sci.2022.32（2）：9-15
- 4) 吉田英人、倉井華子：介護老人保健施設で集団発生した新型コロナウイルス感染症への対応経験 日本プライマリ・ケア連合学会誌.2021.44（3）：132-134

自由で開放的な依存症病棟

石川 章旗（作業療法士）（精神リハビリテーション課）

池村 功（看護師）、手塚 幸雄（医師）



当院は、身体・精神を問わず全ての障がいへ総合的に対応することを目指した、総合リハビリテーション医療センターである。平成8年より回復期リハビリテーション病床を運用しており、令和3年2月に単科精神科病院が移転・合併した（回復期リハビリテーション病棟 199 床＋精神科病棟 211 床）。移転前の単科精神科（玉木病院）ではアルコール依存症に対する入院治療を行っていたが、移転後は休止していた。

令和4年4月に依存症入院治療を再開し、沖縄県より依存症専門医療機関（アルコール健康障害）として指定された。当初は、閉鎖病棟の一部において依存症治療を行っていたが、治療環境の向上のために令和5年4月に依存症治療病棟を開設する院内方針に至った。

しかしながら、地域での依存症治療ニーズが高く、治療をお待たせしてしまう事例が増えていたことから、令和4年11月にプレオープンし、新たな依存症病棟での入院治療を開始している。

当病棟では、生きづらさを抱えた方がリラックスして笑顔で過ごせる治療環境を目指している。「笑顔でつながるストレスケア病棟」をキャッチフレーズに、遊び心を大切にユニークな取り組みを心がけている。

例えば、荷物チェックをしないなど、精神科病院としては例外的な対応もしている。信頼関係を大切に、患者の自主性を重んじ、病院が管理する範囲を極力小さくするよう心がけている。一方で、閉鎖処遇が必要な患者層の対応が困難である等、課題も有している。

現在、令和5年4月の本格運用に向けて試行錯誤しつつ準備をしている最中である。この試行錯誤を共有することで様々な医療機関での今後の実践を検討する一助になることを期待し、本発表を行う。

幻視・妄想・不安感を有したレビー小体型認知症への多職種アプローチ

伊芸 太一（看護師）（本館7階メディカルホールゆいまーる）

平田 幸子（作業療法士）、安村 勝也（作業療法士）、照喜名 舞（管理栄養士）

伊佐 達治（精神保健福祉士）、照屋 益美（看護師）、玉城 祐一郎（医師）



【はじめに】

A 病棟は 53 床の精神科療養病棟であり、精神疾患により入院している患者さんが大半を占めている。今回初めて、レビー小体型認知症で行動・心理症状(以下 BPSD)により精神状態が激しく混乱した A 氏を受け入れて、多職種チームで BPSD の理解と対人関係を築くことを目標に介入を行った。その結果 A 氏は、次第に精神状態が安定し ADL の向上も見られ、自宅へ退院することができた。その支援過程を振り返り、多職種による介入がもたらした A 氏の変化を分析し BPSD 改善と自宅退院に至った要因を明らかにしたので報告する。

【対象と方法】

対象：A 氏 女性 90 歳代 レビー小体型認知症 第 2 腰椎圧迫骨折 202X 年 X 月自宅で転倒し N 病院へ搬送、腰椎圧迫骨折（L2）の診断で保存療法となった。X 月リハビリ目的で回復期リハ病棟へ転院。入院後にせん妄、不穏、独語など精神症状悪化見られ Y 月精神科病棟へ転棟となる。

方法：1.研究デザイン：後方視的事例研究 2.研究期間：202X 年 X 月 X 日～Z 月 3.データ収集と分析

【結果】

A 氏は転入時より、点眼薬の処置の際にも手を振り上げ頑なに拒否され攻撃しようとされ、夜間帯に幻視、せん妄等の症状が多く見られた。興奮状態の時はステーションへ誘導しすぐには内服を促さず、何がやりたいのか、どうしたいのかを確認しながら、会話の中から本人が特にこだわった内容から意識を背けるように会話内容を少しずつ変えていき、落ち着かせるようコミュニケーションをとった。疾患別リハビリテーションも入院初日より提供された。数日後より、抑制に当たる車椅子のオーバーテーブルは除去し、時々足のマッサージを施行しながらその都度本人の訴えを傾聴した。さらに、本人より先生と話がしたいと何度も訴えがあった際には、医師へ本人の意向を伝達し面談の調整を行った。医師より病状・診断・内服薬（説明書も渡す）について説明を受けてからは落ち着きが見られた。転入から 30 日目、A 氏から不穏時・不眠時の頓用薬を自らコントロールできるまでに精神状態が変化し、BPSD の改善が見られた。転入 88 日目、退院前訪問指導にて A 氏の自宅内での生活動線の確認などを実施し、転入 101 日目に希望通り自宅へ退院した。

【考察】

今回、A 氏の精神症状、BPSD が落ち着いて自宅退院できた一番の要因は、各職種が A 氏の言動・行動を観察して多職種チームで情報共有を行い、傾聴・共感・受容の姿勢でコミュニケーションを図り、タイミングを見て介入できたからと考える。それは「認知症の人に行動・心理症状を含む精神症状が生じた時には、こうしたコミュニケーション支援が困難になってしまうことが多い。コミュニケーション支援の前提として周囲の人々に精神症状に関する理解は欠かすことはできない」¹⁾と上野・玉井らは述べており、多職種チームでの情報共有と介入及び情報共有を基にしたコミュニケーションは、その意見を裏付ける実践であったと考える。また、転入初日から行っていたリハ職によるリハビリに関しても、佐藤は「認知症に対する非薬物療法の中で、現時点で発症予防・進行抑制への有効性が確立しているのは運動療法だけである。」²⁾と述べており、認知機能改善への支援になったと言える。そして、主治医からの明確な病状の説明、内服薬の説明は A 氏が自身の病状を理解することを助け、精神状態の安定につながる介入であった。

<参考文献の記載方法>

1) 上野秀樹,玉井顯.認知症におけるコミュニケーション支援.人工知能学会全国大会論文集第 29 回. 2015 ; p2

2) 佐藤正幸; 6 認知症に対する運動療法の効果とそのメカニズム. 特集 認知症とリハビリテーション医学,2018 ; 55,p658

院内医療統計

(2022年4月～2023年3月)

(集計対象期間:2022年4月1日~2023年3月31日)

1日平均在院患者数

	対象	対象割合	対象外	対象外割合	合計	前年
2F	29.5	92.2%	2.5	7.8%	32.0	37.3
3F	47.4	97.6%	1.2	2.4%	48.6	51.4
4F	47.8	96.8%	1.6	3.2%	49.4	50.6
5F	46.8	93.9%	3.0	6.1%	49.8	52.3
合計	171.4	95.4%	8.3	4.6%	179.7	191.5
利用率	86.1%		4.2%		90.3%	96.2%

回復期リハ病棟実績(I)

区分		日付			
		2022.4/1~2023.3/31(単月)			
2F ~ 5F 合計	重症者の割合	10点以上(30%)	実人数	該当数	実績
		A項目(10%)	890	410	46.1%
	在宅復帰率(70%)		-	-	-
	重症者改善率(4点以上)		861	776	90.1%
	回復期リハ対象者		370	273	73.8%
回復期リハ対象者		65564	62537	95.4%	

病棟別・在宅復帰率

(2022年4月~2023年3月実績:退院患者数 989)

	自宅	在宅所・グループホーム等	施設	病院	その他(対象外・死亡等)	総計	算定除外数	在宅復帰率(%)	在宅復帰率回復期病棟用(%)
2階病棟	167	12	17	13	43	252	60	71.0%	93.2%
3階病棟	180	28	15	14	14	251	15	82.9%	88.1%
4階病棟	195	28	18	19	8	268	21	83.2%	90.3%
5階病棟	143	23	12	29	11	218	32	76.1%	89.2%
合計	685	91	62	75	76	989	128	78.5%	90.1%

*「退院患者数」は、当病院施設外への退院数とし、転入数・転出数は含めない。

[病棟別]在院日数状況表

	入院数(転入数)	退院数(転出数)	在院延べ数	1日平均在院数	1日平均入院数	1日平均退院数	平均在院日数
2階病棟	279	278	11,661	31.95	0.76	0.76	41.87
3階病棟	253	255	17,724	48.56	0.69	0.70	69.78
4階病棟	269	271	18,022	49.38	0.74	0.74	66.75
5階病棟	219	218	18,160	49.75	0.60	0.60	83.11
合計	1020	1022	65,567	179.64	2.79	2.80	64.22

*「入院数」・「退院数」には、転入数・転出数を含みます。

* 平均在院日数(数値は、在院患者様すべて含んだ計算になっています。)

[診療科別]在院日数状況表 (実績)

	入院数	退院数	在院延べ数	1日平均在院数	1日平均入院数	1日平均退院数	平均在院日数
内科	232	251	15,742	43.13	0.64	0.69	65.18
脳神経外科	32	31	2,241	6.14	0.09	0.08	71.14
整形外科	332	329	15,514	42.50	0.91	0.90	46.94
リハビリ科	418	405	32,012	87.70	1.15	1.11	77.79
精神科	6	6	58	1.87	0.19	0.19	0.00
合計	1020	1022	65,567	179.64	2.79	2.80	64.22

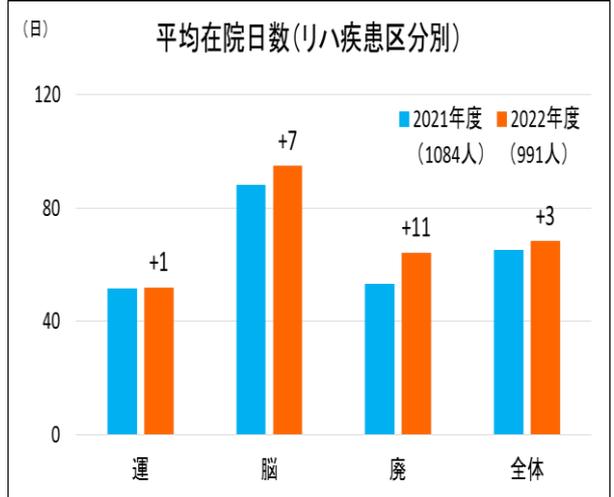
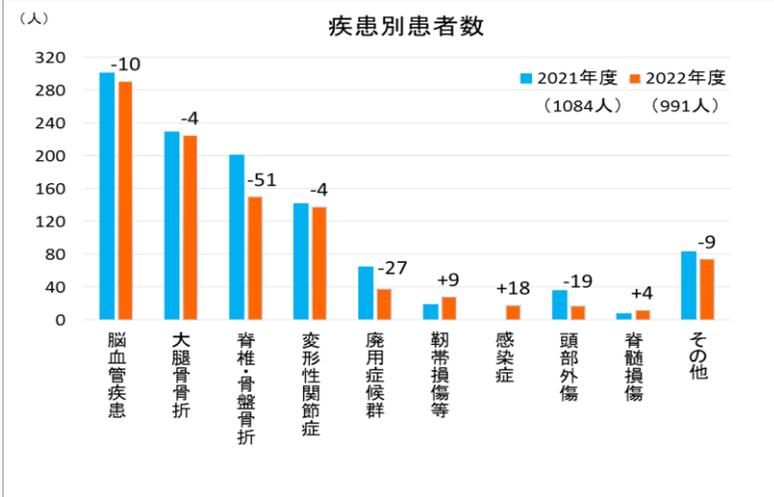
* [診療科別]在院日数状況表の「入院数」・「退院数」には、転入数・転出数を含みます。

[リハビリ疾患別]在院日数状況表 (実績)

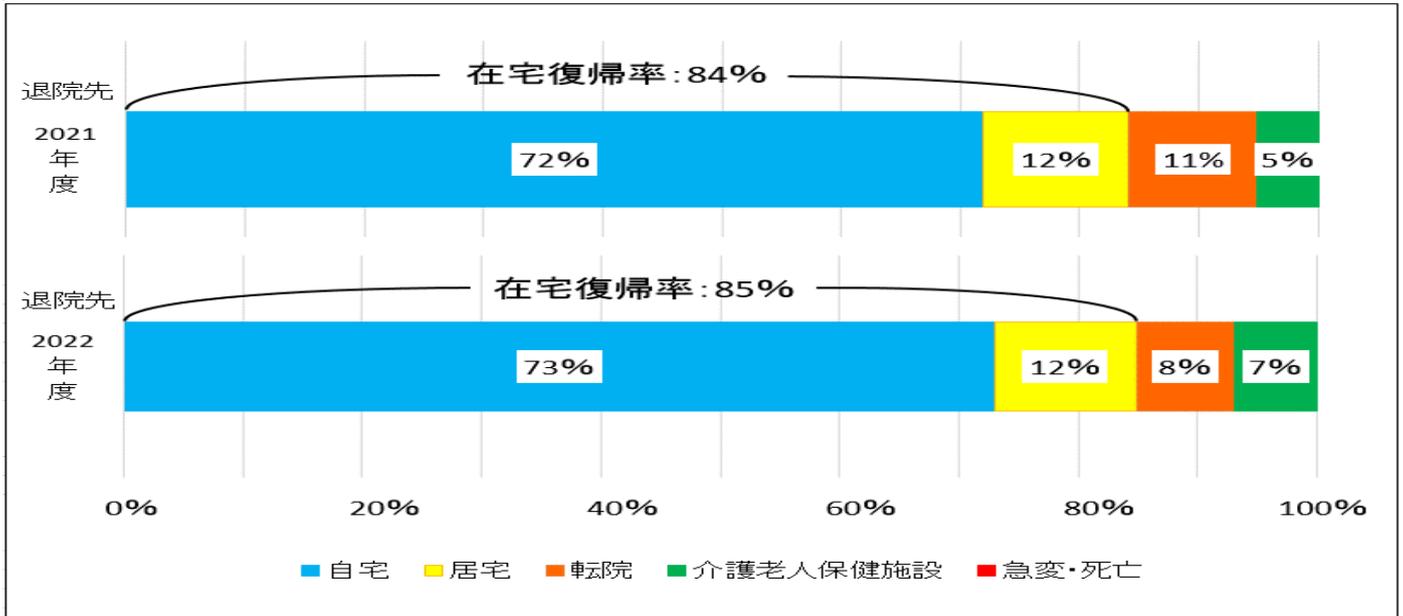
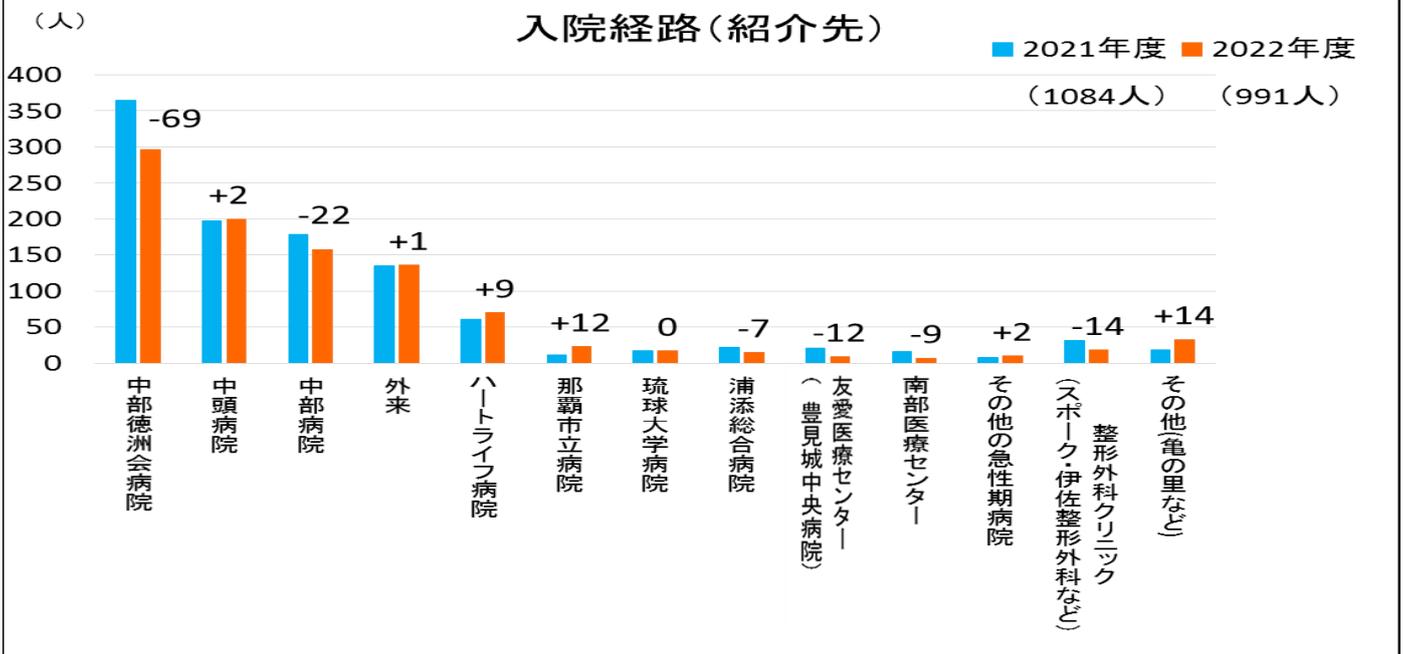
	入院数	退院数	在院延べ数	1日平均在院数	1日平均入院数	1日平均退院数	平均在院日数
脳血管	351	362	32,636	89.41	0.96	0.99	91.55
運動器	597	589	29,737	81.47	1.64	1.61	50.15
呼吸器	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
廃用	72	71	3,194	8.75	0.20	0.19	44.67
リハ算定なし	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	1020	1022	65,567	179.64	2.79	2.80	64.22

※[リハビリ疾患別]在院日数状況表の「入院数」・「退院数」には、転入数・転出数を含みます。

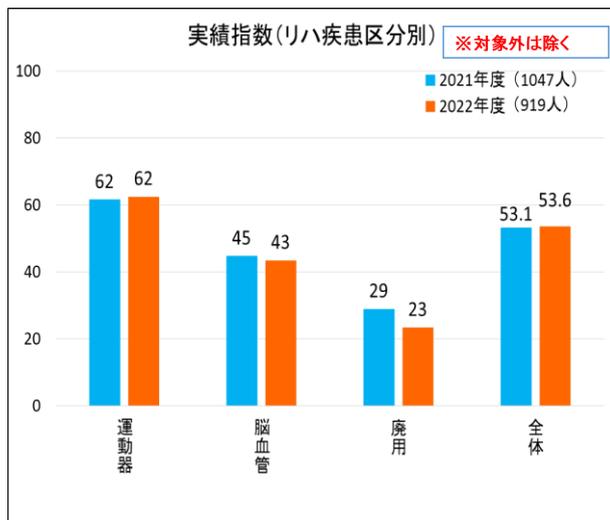
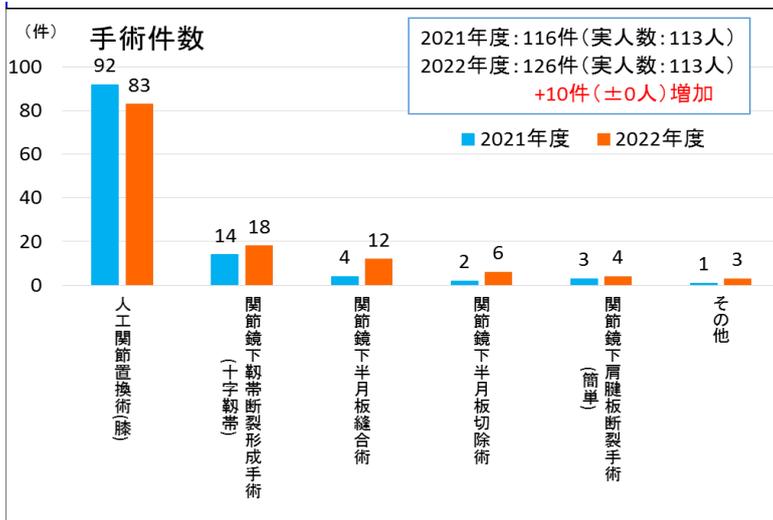
2022年度 回復期退院患者の統計実績（2021年度との比較）



※脳血管疾患の内訳: 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、水頭症(くも膜下出血・脳室内出血)
 ※靭帯損傷の内訳: 膝前十字靭帯損傷、肩腱板断裂
 ※頭部外傷の内訳: 脳挫傷、急性・慢性硬膜下血腫、外傷後水頭症、外傷性くも膜下出血
 ※その他の内訳: 腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、胸髄症など



※居宅系施設: 有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、認知症高齢者グループホームなど
 ※本集計は全退院患者を集計対象とした在宅復帰率となります



※2021年度(2021/4/1~2022/3/31)、2022年度(2022/4/1~2023/3/31)の手術実施者対象

2022年度疾患別患者数 当院に多い上位10疾患

期間: 2022/4/1~2023/3/31

入院(全991件)

大分類別

ICD分類	人数	割合
S・T 損傷	444	44.8%
I 循環器系	291	29.4%
M 筋骨格系	213	21.5%
U COVID-19	18	1.8%
G 神経系	15	1.5%
D 新生物	5	0.5%
E 内分泌	3	0.3%
R 症状・他に分類されないもの	1	0.1%
Q 先天奇形	1	0.1%
総計	991	100.0%

中分類別

ICD	代表疾患	集計	割合
S72	大腿骨頸部骨折の術後、大腿骨転子部骨折の術後	214	22%
I63	アテローム血栓性脳梗塞、脳梗塞、心原性脳塞栓症	181	18%
M17	変形性膝関節症の術後	114	12%
S32	腰椎圧迫骨折、骨盤骨折	110	11%
I61	被殻出血、視床出血、小脳出血、脳皮質下出血	96	10%
S22	胸椎圧迫骨折	41	4%
M62	廃用症候群	38	4%
M16	変形性股関節症の術後	25	3%
S83	膝前十字靭帯損傷、半月板損傷	23	2%
U07	COVID-19	18	2%
	総計	991	100%

外来(全49,428件)

実患者数5,357人

大分類別

ICD分類	人数	割合
M 筋骨格系	14,683	30%
F 精神及び行動の障害	14,610	30%
I 循環器系	7,020	14%
S・T 損傷	4,793	10%
G 神経系	3,388	7%
E 内分泌	1,865	4%
A・B・U 感染症(COVID-19)	837(551)	1%
J 呼吸器系	626	2%
K 消化器系	547	1%
その他(B感染症・R症状など)	1,059	1%
総計	50,909	100%

中分類別

ICD	代表疾患	人数	割合
M17	変形性膝関節症	4,164	8%
F20	統合失調症	3,037	6%
I10	高血圧症	2,650	5%
M47	変形性腰椎症、脊椎症	2,033	4%
F32	うつ病	1,906	4%
F10	アルコール依存症	1,887	4%
I61	脳出血	1,661	3%
M48	腰部脊柱管狭窄症	1,461	3%
F06	高次脳機能障害	1,396	3%
I63	脳梗塞	1,379	3%
	総計	49,428	100%

2021年度・2022年度の疾病大分類統計（退院患者）

疾病分類		2021年度(人)	2022年度(人)	比較人数
総数		1084	991	-93
I 感染症及び寄生虫症（A00-B99）		2	0	-2
II 新生物（C00-D48）		3	5	2
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患（E00-E90）		1	3	2
VI 神経系の疾患（G00-G99）		16	14	-2
IX 循環器系の疾患（I00-I99）		308	292	-16
	脳梗塞（I63）	174	181	7
	脳出血（I61）	103	96	-7
	くも膜下出血（I60）	11	6	-5
	その他	20	9	-11
X I 消化器系の疾患（K00-K93）		0	0	0
X II 皮膚及び皮下組織の疾患（L00-L99）		0	0	0
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患（M00-M99）		256	213	-43
	廃用症候群（M62）	65	38	-27
	変形性膝関節症（M17）	120	114	-6
	変形性股関節症（M16）	22	25	3
	その他の脊椎障害（M48）	21	12	-9
	頸髄症性脊髄症（M47）	11	8	-3
	その他	17	16	-1
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常（Q00-Q99）		1	1	0
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響（S00-T98）		497	444	-53
	大腿骨骨折（S72）	219	214	-5
	腰椎及び骨盤の骨折（S32）	138	110	-28
	肋骨及び胸椎骨折（S22）	52	41	-11
	膝関節及び靭帯の脱臼（S83）	16	23	7
	下腿の骨折（S82）	16	16	0
	頭部外傷（S06）	28	14	-14
	脊髄損傷 （S14.1、S24.1、S34.1、T09.3）	8	12	4
	その他	20	14	-6

タピックグループ メディア関連記事 (医療医学・観光・その他)

メディア関連記事は冊子にて掲載しております。

ご希望の方に数量限定ではありますが冊子の配布をしております。

2022年(令和4年) 年表

1月4日	2022年 タピックグループ年始式
1月6日	ホームページリニューアル
1月29日	リーダー研修 2021
2月17日	沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第31回研修会(当院事務局)
2月19日	マネジメント研修 2021
2月21~23日	リハビリテーションツーリズム モデル実証(
3月1日	プライムガーデンうるま 介護付き有料老人ホーム
4月1日	医療法人合同入職式
4月1日	沖縄県依存症専門医療機関 選定
4月1日~22日	新人教育プログラム 2022
4月1日	Free(無料) Wi-Fi を導入(一部エリア)
6月4日	イーストタピック研究大会 2022 (WEB)
6月10日	沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第32回研修会(当院事務局)
6月30日	看護ケーススタディ発表会 2022
7月22日	クレーム対応研修 2022
8月6日	中堅研修 2022 パートⅠ
8月20日	2年目研修 2022
9月3日	新入職中期研修 2022
9月10日	沖縄県高次脳機能障害セミナー「事例から学ぶ沖縄の自動車運転再開支援」 開催 (当院 共催)
9月17日	リーダー研修 2022 パートⅠ
10月1日	沖縄県失語症セミナー2022「失語症がある方の復職・就労支援」 開催(当院 共催)
10月1日	整形外科 完全予約制 開始
10月1日	ラ・ペジューブル泡瀬 一部、地域密着型特定施設入居者生活介護へ転換
10月19~21日	病院機能評価訪問審査
10月8日	沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第9回研究大会(当院事務局)
11月11日	中堅研修 2022 パートⅡ
12月6~9日	リハビリテーションツーリズム モデル実証(日本人)
12月7日	臨床倫理研修 2022
12月10日	中途入職者研修 2022

TAPiC グループ

♥ 医療・介護

沖縄リハビリテーションセンター病院

- ・精神科デイケア・デイナイトケア
- ・高次脳デイケア
- ・沖縄百歳堂デイケアセンター
- ・訪問リハビリテーション室
- ・ねたて訪問看護室
- ・沖縄県認知症疾患医療センター(地域型・中部圏域)
- ・沖縄県依存症治療拠点機関
- ・沖縄県依存症専門医療機関
- ・沖縄県高次脳機能障害支援拠点機関

介護老人保健施設 亀の里

たびっく地域ケアホームひやごん

- ・たびっく定期巡回ケアステーション
- ・たびっくデイサービスセンター
- ・あわせ訪問看護ステーション
- ・あわせヘルパーステーション

プライム・ガーデンうるま(介護付き有料老人ホーム・特定施設)

サービス付き高齢者向け住宅 ラ・ペジューブル泡瀬(一部特定施設)

デイサービスあわせ

宮里病院

- ・精神科デイケア
- ・重度認知症デイケア
- ・沖縄県認知症疾患医療センター(地域型・北部圏域)
- ・精神科訪問看護室

多層共同住宅 ラ・ペジューブル名護

ワークセンターリガーレ

- ・計画相談支援事業所リガーレ
- ・就労継続支援 B 型事業所リガーレ

名護市スポーツリハビリテーションセンター SpoRC クリニック

- ・通所介護、訪問リハビリテーション

沖縄市地域包括支援センター西部南

宜野湾市地域活動支援センター TAPiC

🌳 自然・公園

名護中央公園(名護城”なんぐすく”公園)
浦添大公園
中城公園
安座真海浜公園(あざまサンサンビーチ)
県民の森
平和創造の森公園

🏛️ 文化

沖縄文化健康センターペアーレ沖縄・タピック
今帰仁村グスク交流センター

🏃 スポーツ・健康・運動公園

コザ運動公園・沖縄市立総合運動場体育施設
与那城総合公園
SpoRC フィットネスセンター
21 世紀の森体育館
名護市陸上競技場
名護市真喜屋運動広場
タピックタラソセンター宜野座

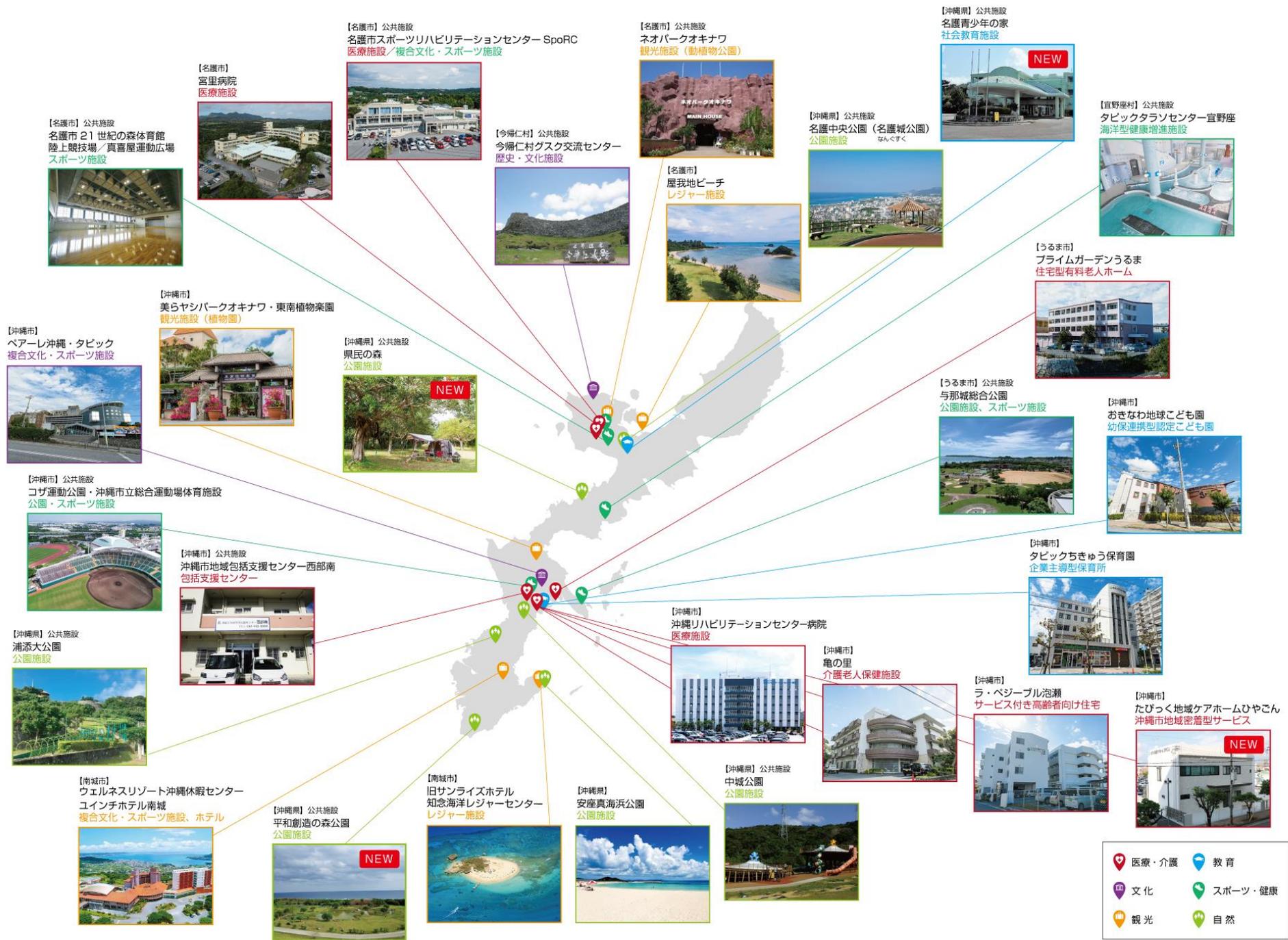
🏠 教育

幼保連携型認定こども園 おきなわ地球こども園
企業主導型保育所 タピックちきゅう保育園
ちばな学童クラブ
名護青少年の家

🏖️ 観光

美らヤシパークオキナワ・東南植物楽園
ウェルネスリゾート沖縄休暇センター ユインチホテル南城
・天然温泉施設「猿人の湯」
ネオパークオキナワ(動植物公園)
屋我地ビーチ
知念海洋レジャーセンター





【名護市】公共施設
名護市21世紀の森体育館
陸上競技場／真喜屋運動広場
スポーツ施設

【名護市】
宮里病院
医療施設

【名護市】公共施設
名護市スポーツリハビリテーションセンター SpoRC
医療施設／複合文化・スポーツ施設

【今帰仁村】公共施設
今帰仁村グスク交流センター
歴史・文化施設

【名護市】公共施設
ネオパークオキナワ
観光施設（動植物公園）

【名護市】
屋我地ビーチ
レジャー施設

【沖縄県】公共施設
名護中央公園（名護城公園）
公園施設

【沖縄県】公共施設
名護青少年の家
社会教育施設

【宜野座村】公共施設
タビックタラソセンター宜野座
海洋型健康増進施設

【沖縄市】
美らヤシパークオキナワ・東南植物楽園
観光施設（植物園）

【沖縄市】
ペアーレ沖縄・タビック
複合文化・スポーツ施設

【沖縄県】公共施設
興民の森
公園施設

【沖縄市】公共施設
コザ運動公園・沖縄市立総合運動場体育施設
公園・スポーツ施設

【沖縄市】公共施設
沖縄市地域包括支援センター西部南
包括支援センター

【沖縄県】公共施設
浦添大公園
公園施設

【沖縄市】
沖縄リハビリテーションセンター病院
医療施設

【沖縄市】
亀の里
介護老人保健施設

【うるま市】公共施設
与那城総合公園
公園施設、スポーツ施設

【うるま市】
プライムガーデンうるま
住宅型有料老人ホーム

【沖縄市】
おきなわ地球こども園
幼保連携型認定こども園

【沖縄市】
タビックちきゅう保育園
企業主導型保育所

【南城市】
ウェルネスリゾート沖縄休暇センター
コインチホテル南城
複合文化・スポーツ施設、ホテル

【沖縄県】公共施設
平和創造の森公園
公園施設

【南城市】
旧サンライズホテル
知念海洋レジャーセンター
レジャー施設

【沖縄県】公共施設
安座真海浜公園
公園施設

【沖縄県】公共施設
中城公園
公園施設

【沖縄市】
ラ・ベジューブル泡瀬
サービス付き高齢者向け住宅

【沖縄市】
たびっく地域ケアホームひやごん
沖縄市地域密着型サービス

- 医療・介護
- 文化
- 観光
- 教育
- スポーツ・健康
- 自然

編集後記

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

管理部 統括部長

玉栄 亨

2022年度は新型コロナウイルス感染症の波が三年間で一番大きく押し寄せた年でしたが、無事に業績報告2023年を発行できたことをうれしく思います。新型コロナの第6波、第7波、第8波と厳しい局面の中、沖縄リハビリテーションセンター病院、介護老人保健施設亀の里、高齢者入居施設（ラ・ページブル泡瀬、プライムガーデンうるま）でも、患者・利用者・職員の感染が相次ぎクラスターも複数発生、感染対策に追われる日々でした。特に沖縄県では第7波の8月3日に一日の感染者数が6180名、過去最大の感染数となりました。しかし、コロナ禍でも当院においては、講演・講義、院内研修や学術研究大会、全国の学会発表、講師派遣、ホール（病棟）カンファレンスなど、学術・研究をWebやハイブリットで開催や参加を感染対策に十分配慮しながら学びや研究などを止めることなく取り組んだ一年でした。また、沖縄県依存症専門医療機関の選定、沖縄県依存症治療拠点機関の指定、精神科急性期治療病棟（依存症治療病棟）の立上げ、沖縄県認知症疾患医療センターの指定、認知症治療病棟の立上げ、地域包括ケアシステムを構築するための沖縄市指定委託事業の認知症対応型通所介護事業と定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の受託、宜野湾市の地域活動支援センター機能強化事業の受託など、医療・介護の質向上に向けた歩みを止めず、社会や地域が必要としていることへチャレンジを続けることができたことは、タピックの持つ企業風土、組織力だと感じています。そして、一年間の業績を皆様へ報告することができました。本業績集を担当した編集員の皆さん、業績に関して確認対応を頂いた関係者各位に対し改めて感謝申し上げます。

2023年度に入り、沖縄では6月25日頃梅雨明けとなり、連日厳しい暑さが続いています。一方、日本海側（九州～東北）での豪雨災害、太平洋側では40度近い危険な猛暑となっています。WMO（世界気象機関）は「異常気象はもはや新しい平常」としながら解決方法について主要な所見を述べています。同じくWHOでもメッセージとして「私たちには手段も知識も解決策もあります。しかし、ペースを上げなければならない。」と共鳴しています。

タピックとして、職員として、地域で暮らす一人の住民として、地球にやさしい暮らし方を考え実践しながら、タピック目標年としている2040年の新しい社会のしくみづくりに向け、全員力、チーム力、組織力を高めながら「健康と生きがいのある元気なまちづくり」を推進してまいります。

<表紙について>

表紙の画像は2023年6月に開催いたしましたセントラルタピック研究大会のポスター画像です。

今回の研究大会は、沖縄リハビリテーションセンター病院やイーストタピックの地域生活支援施設、そして、タピックグループの美らヤシパークオキナワ・東南植物楽園や沖縄文化健康センターペアーレ沖縄・タピック、コザ運動公園・沖縄市立総合運動場体育施設などのセントラルタピックで開催しました。

一般演題では、医療、観光、教育、スポーツ、文化などTAPICグループならではの多彩な内容でした。

特別講演では国立大学法人琉球大学 国際地域創造学部ウェルネス研究分野／大学院観光科学研究科 教授 医学博士 荒川雅志（あらかわ まさし）先生より、『世界5 大長寿地域ブルーゾーン沖縄から学ぶアフターコロナの生き方・働き方～需要高まるウェルネス産業動向と Well being まちづくり～』というテーマで、ご講演頂きました。

タピックは「健康と生きがいのある元気なまちづくり」を地域の方々とともに創っていきます。

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院 業績集 2023



発刊日：2023年8月1日

発行元：医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

編集者：医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院 業績集2023作成委員会

発行責任者：宮里 好一（タピック代表）

編集委員長：和宇慶 亮士（教育研修局 マネージャー 作業療法士）

編集委員：真栄城あかね（新館5階メディカルホールていだ マネージャー 理学療法士）

名嘉真 卓（リハビリテーション部 サブマネージャー 作業療法士）

石川 章旗（精神科デイケア サブリーダー 作業療法士）

伊禮 翼（老人保健施設 亀の里 管理部主任 事務）

古謝 彩実（医事課 診療情報管理士）

大城 愛梨（管理部）

池宮 沙織（管理部）

久高 萌（管理部）

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

〒904-2173 沖縄県沖縄市比屋根二丁目15番1号

電話番号：098-982-1777 FAX 番号：098-982-1788

ホームページ：<http://www.tapic-reha.or.jp/>

